

Alex's Lemonade Stand から 「人のために生きる」ことを考える



宮崎貴弘

Genius English Communication I の構成は非常に特徴的である。Lesson 1 の A Village of One Hundred (世界がもし100人の村だったら) で、世界を概観した後、様々な題材を深く学ぶ構成になっている。しかし、なぜ私たちは世界の出来事や問題を学ぶ必要があるのか。その答えを考えられる Alex's Lemonade Stand (Lesson 5) は、この教科書の要だと考えている。このレッスンの授業実践を「読むこと」と「話すこと（やり取り）」に特化して紹介する。

◆レッスンの目標設定に不可欠なこと

このレッスンは、生まれてまもなく小児がんと診断された女の子アレックスの実話である。彼女はレモネードを売った収益を小児がん治療の研究に寄付する活動を始める。それがわずか5歳のときのこと。彼女の生き方や考え方を自分と関連づけて考え、それを伝え合うことを授業の目標とする。

■内容面：

- アレックスの Lemonade Foundation 設立の経緯を簡単に説明できる。
- Lemonade Stand に関わった人物の心情を推測し、論理的に説明できる。
- アレックスの取り組みや心情をもとに、「誰かのために何かをすること」について、自分の考えや気持ちを述べるができる。

■言語面：

- discourse markers を見つけ、概要や要点を理解することができる。（読むこと）
- 根拠を添えて、人物の推測した心情を伝え合うことができる。（やり取り）

◆題材を自己関連させ、新出語彙を導入

まずは、生徒に身近なことから始める。例えば、24時間テレビの写真を見せながら **Do you watch this 24-hour TV program every year? What is the TV program like?** と尋ねる。生徒同士でやり取りをして、charity に関するスキーマの活性化を図る。その後、同じ質問について教師と生徒でインタラク션을しながら、新出語彙の音声を聞かせ、語彙の意味を推測させる。

次に、新出語彙を織り交ぜた短い英文を読む。前後の文脈から意味を推測し、適する定義を選択肢から見つける。例を載せておく。

There are many kinds of charities in Japan. You may see a charity being discussed on 24-hour TV programs. Charities raise money for people with disabilities, people with serious illness, the environment, and so on

[Options]

- a. an organization that gives money, goods, or help to people who are poor, sick, etc
- b. a disease of the body or mind

その後、読んだ英文についてやり取りの活動を設定することが重要である。例えば、Have you

ever joined a charity program? と発問し、テーマを自己関連させていく。自己関連を促す質問は、レッスンの最後だけ行っても生徒は深く考えられないので、段階的に質問を積み重ねる。生徒の答えが yes であれば、5W1H について質問を交えながら伝え合うことを指導する。ここでは、生徒の発話の accuracy (正確さ) は求めず、教師は机間巡視をしながら、生徒の発話内容について肯定的なコメントや質問をする。

チャリティー活動経験のある生徒に理由をシェアしてもらう。また、チャリティー活動に関心のない生徒の考えも大切にす。その上で、If you had a severe illness or disease, would you do a charity activity for others? と問いかける。生徒に問いかけ、間をじっくり取り、そして「アレックスという女の子が病気でありながらチャリティー活動を始めた。何のためなのだろうか」と問いかけ、本文を読むきっかけを作る。

◆読むことの目的を設定する

読むときは、必ず目的を持たせる。例えば、1 回目は概要を掴むためにトピックを選ばせる。2 回目は要点を掴むために「Lemonade Days を大まかに説明 (retelling) してもらいます。必要な情報を捉えて下さい」と課題を与える。読んだことをもとに何を行うのか (目的) を示す。教師は「Lemonade Days はいつ・何をして・それは何のためなのか・そしてどのように始まったのか」などと、把握すべき点を提示し、支援をする。

retelling に必要な英文を音読し、内容を刷り込んでいく。Lemonade Days について詳しく知りたいことや疑問があれば、調べて説明に追加させる。主体的に学習に取り組む態度である。

retelling は、教科書本文に書かれたことを無目的にまとめるのではなく、「Lemonade Days について説明をする」というように目的を持たせる。また、retelling の内容が全員同じであれば伝え合う必要性はない。そこで、調べてきたことや感想

などを追加して、情報のギャップを作る。

◆題材を深めて、やり取りの質を高める

次に小児がんの理解を深めていく。YouTube には小児がんに関する映像がある。子どもの細い腕に採血等で何百回も注射をされている事実を知ると、チャリティー活動が容易ではないことに気づく。そして、その子が亡くなることの意味を考え込んでしまう映像を見せる。小児がんと診断された本人や家族の思いを知ると、胸が詰まる思いになる。文字から理解したことと小児がんの事実にはギャップが生まれると、生徒は思考し始める。

映像視聴後、本文に出てくる人たちの心情を考え直してみる。例えば、They [The doctors] told her parents that she would never walk again (Part 2) での、両親の気持ちを考える。また、Alex and her older brother Patrick set up the first “Alex’s Lemonade Stand for Childhood Cancer” ... (Part 3) での、パトリックの心情の推測には、様々な意見が出てくる。このような inferential questions (推論発問) で、内容について考えさせることが題材を深める。

そして、part 4 に One day in 2004 Alex’s mother heard Alex tell a TV reporter that she hoped to raise \$1 million. とある。この英文を読むと、アレックスが目標を宣言しただけと解釈できる。ここで、TV レポーターに答えている実際の映像を見せる。Alex が意識朦朧としている中、TV 番組に出演している。なぜ、彼女がそこまでして Lemonade Stand の活動を続けるのか。映像を見終えた後、生徒たちに考えさせると教室が静寂に包まれる。

登場する人たちの心情を推測し、自己関連させながら考えることを積み重ねる。そして、最後は「誰かのために何かをすることは必要なのか。また、なぜそう思うのか」を考え、意見を交わし、書くことで言語化する。

(みやざき たかひろ・神戸市立葺合高等学校教諭)